



## 夏休み、今 チャレンジの時！

早いもので、本日が6月の最終授業日。明日からは、子どもたちには待ちに待った補習校の夏休みが始まります。子どもは、現地校や補習校の学校生活から離れ、全てが家庭生活に戻ります。

今年も、サマーキャンプへの参加や家族旅行を楽しみにしている子は多く、7月に入り、日本への一時帰国を計画されているご家庭も見受けられます。夏休みの過ごし方はご家庭により様々ですが、①夏休み中であっても早寝・早起きの生活習慣の継続 ②家庭学習は早めに計画し、毎日継続 ③読書習慣の継続の「3つの継続」が大切です。



小5(校長の授業参観)

先週の補習校だよりでもお知らせしましたように、夏休み中には、学級から出される宿題とともに「該当学年の漢字・計算の総復習」を計画に入れて下さい。その上で、全校朝礼でお話しましたように子どもたちが「長い夏休みだからこそ体験できるチャレンジを！」を今年も目標の一つに取り組んでほしいと思います。

先々週の全校朝礼で、私は「夏休みの自由研究」の話を紹介しました。ひと昔前は、日本の小学校では、夏休み作品展が盛んで、夏休みの絵や工作、昆虫採集や貝殻採取などの展示が盛んでしたが、今は、テーマを決めて「調べてみる」「作ってみる」「実験してみる」の自由研究が盛んです。全校朝礼では「海とさかなの自由研究・作品コンクール」を紹介し、「アサガオ」の観察を取り上げて話をしました。自由研究は、研究テーマを決め、集中して取り組むことで、学習へ自信がつかます。又、アサガオを「育てる」継続して「世話をする」「観察する」という体験は子どもたちには、夏休み中の一つの大きな成果となります。補習校の宿題である「夏休み新聞」にもこのことを取り上げると、充実した記事が期待できます。「夏休みならではのチャレンジ」をテーマにご家庭でも、話し合ってください。

さて、先週は、生徒会の提案による東日本大震災の被災地支援として、貯金箱作りを通しての



第1回の募金集約活動が行われました。この日の生徒会では、「肩たたきがしんどかった」「ビーズを作って販売するのに苦労した」など、お小遣いをためる苦労も出され、ずっしり重くなった集金袋からは、子どもたちの被災地に寄せる気持ちが伝わってきました。また、生徒会では、義援金の支援先として学校図書がすべて 流された被災地の学校に寄贈することも決めました。夏休み明けには、具体的な支援が決まり

(義援金送付を決める生徒会) ましたら、生徒会からお知らせいたします。

それでは、ご家族皆様、お元気で夏休みを過ごしてください。8月6日の夏休み明け授業再開日には、一回り大きくなった子どもたちと出会うことを楽しみにしています。